

建築士による住宅相談会

連載 楽しき町歩き 京の町並み 第9回 「道ばたで遊ぶ」



撮影者 洛西支部 田中 義人

今回の表紙の写真は、京都を代表する「京都国立博物館」の新館「平成知新館」です。平成25年8月に竣工され翌年の平成26年9月に開館されました。設計はニューヨーク近代美術館、東京国立博物館、法隆寺宝物館などを手掛けた建築家の谷口吉生氏です。日本的な空間構成を取入れ、直線を基調とした展示空間、また開放的なロビーは昼間は陽光が降りそそいで優しく包んでくれます。庭を眺望出来るレストランなど、魅力一杯です。又夜景も捨てたものではありません。コロナが落ち着いたら是非、一度皆さんも散策されてみては如何でしょうか。



CONTENTS

- 【巻頭コラム】 「新・ふだんあまり意識しないこと…季節はめぐる…」
～災害と暮らし～ 名和 啓雅 …………… 03
- 【支部だより】 洛東支部だより 中井 洋一 …………… 04
洛西支部だより 野間 洋平 …………… 04
桃山支部だより 渡邊 聡 …………… 05
乙訓支部だより 小森 良一 …………… 05
- 【お知らせ】 客室における換気設備について…………… 06
建築士による住宅相談会 …………… 07
- 【連載】 「道ばたで遊ぶ」 辻 伸子 …………… 08
- 【キャンペーン】 京都府建築士事務所キャンペーン
『無料木造耐震診断』 …………… 10
- 【健康だより】 『座りすぎ』は危険です！ …………… 11
- 【賛助会員だより】 株式会社ナガオカ …………… 12
株式会社エム・コーポレーション …………… 13
- 【コラム】 図面を読み取る 野間 洋平 …………… 14
- 【連載企画】 四コマまんが・えだまめ …………… 15
- 【あとがき】 スケッチ・編集後記 …………… 16

会員数 (10月1日現在)

支部	洛北	洛中	洛東	洛南	洛西	桃山	城南	山城	乙訓	南丹	北部	丹後	合計
事務所数	53	62	33	41	43	40	19	15	25	16	21	4	372

「新・ふだんあまり意識しないこと…季節はめぐる…」 ～災害と暮らし～

洛中支部 名和 啓雅

秋になりましたがコロナ感染症は、8月には収まるどころかその前後のオリンピック開催がきっかけとなり、予想通り感染者増をもたらし、ようやく多世代にワクチン接種が広まりだして新規感染数が減少傾向になりました。かつてアマチュアスポーツの祭典として感動できたオリンピックですが、今は商業主義に利用され、原点の輝きを失った姿が露呈したように思います。昨年の今ごろは初めての緊急事態宣言なるものが解除され、ひとまず落ち着きを見せたにもかかわらず、Go Toトラベルキャンペーンで感染数が増えた頃でした。人が動けば感染症は必ず出現するのですが、このmRNAワクチンの有無に拘わらずに、結局は予防策の基本に立ち返るしかありません。家畜動物に以前から使われていたこのワクチンですが、家畜は年を経る前に既に食されていますから、その影響はわからないままです。感染の当面の処置として使われましたが、ワクチンはどこまでいってもCovid-19の治療薬ではないだけに、無防備な生活は禁物です。ウイルスの病原性が弱り人体と共調するまで、イタチごっこを繰り返し、それでも何年後かにはまた新種の病原体が出現するということが繰り返されるのでしょう。人の細胞の数が30兆で、腸の中の細菌の数は300兆とか、私たちはウイルスを含め微生物と共にそれらの塊として生きているようです。

興味深いのは、志賀直哉の小説に100年前の流行性感冒が書かれていて、子守をする女中が、一家の主人からやめておくように言われていたのに芝居を見に行き、それが子供に移りあつという間に我が子が命を落す話があります。現代が100年前より衛生状態は向上しているのに、人の交流が互いの息を吸い込み、体内のウイルスが増えるメカニズムが同じで、当時と違いウイルスが原因とわかる時代になったにも拘わらず、対処の仕方にはなんとも歯がゆさを感じます。当初、コロナウイルスには校正機能があるのでさほど変種は出ないだろうと思われていたようですが、どっこい、人間の思いの届かない

ことがおきます。最近、このような急増殖をするウイルスは校正機能が不十分で自分のミスコピーを繰り返しやがて自滅していく、というある学者先生の記事があり、これが正しければ2年ほどすれば治まるのかもしれませんが。今回のコロナ禍でしばしば言われる“自粛疲れ”なるものですが、日本人の国民性によるところもあるのではないかと思います。飽きやすく幾度か同じ失敗を繰り返す日本人は、地理的に孤立が避けられなかった上に、火山の噴火、津波や台風などと絶えざる危険に晒されてきたために、自分に都合よく安心バイアスを働かせ、結果その孤立化が長年に亘り日本人の精神と心に深く影響を及ぼしているのかもしれませんが。

人間の生存も自然の一部ですから、数百年単位の暮らし方の変化が今日の災害をもたらしてしまっていると思います。ひるがえって、京都は地理的に比較的災害が少ない生活圏ですが、少し地面をめくれば大山の噴火の土も出てきますし、水害も結構多く都市域に被害があることがわかります。比較的最近では（と言っても80年以上前のことですが）鴨川も昭和10年に大水害があり、市域で三条大橋の流失や2万4千戸以上の浸水被害が記録に残っています。その後浚渫して今の川底に落ち着いているようですが、当時の四条大橋辺りは納涼川床から水面がすぐ近くにあったようです。鴨川の勾配は上流で1/100、中流1/350～で、比較的信濃川の勾配を荒っぽくみると、上流域で1/400、中流域では1/700～1/1300で、日本を代表するこの大河でもやはり急です。この夏、被害の大きかった佐賀県大町町の六角川は中流域で1/150、ところが平野部の下流域では1/3000と勾配がほぼ無いに等しく、内水氾濫を起こしたということでした。わたしが子供の頃には無かったように思われる100年に一度の大雨が毎年おこるようになり、個人や建築にできることはしていますが、些細なことでも気候変動の要因たる消費生活の見直しを続ける必要を思います。

洛東支部

支部長 中井 洋一

テレビCMを見て思い出しました!

洛東支部より地域の公園遊具をご紹介します。「タコの滑り台」です。ある集合住宅団地内の児童公園にあり、通称“タコ公園”と呼ばれ、地域の子供達で賑わっております。私も幼少の頃、我家の子たちもよく遊びました。

このタコの遊具は、1970年頃から東京のデザイン会社が製作をされ、全国に100ヶ所以上もあり、最近では海外にも設置されているそうです。

大きさなどは、幅10m×奥行5m×高さ4.5m、コンクリート造の人造石研ぎ出し仕上げ。屋外公園遊具で、「建築の著作物」や「美術の著作物」には該当しないとのこと。ただし公園遊具の安全基準に準じて製作する必要があります。

以前に子たちとこの公園を訪れた際、自分が幼少期に感じた記憶では、もっと大きなスケールの物と思い出しながら見ておりました。当時は広く感じていた通路幅ではありませんが、大人になって同じ通路を通りますと、大人の肩幅位で狭く感じました。(笑)

子供の頃から身体を使った経験や記憶は大人になってからもずっと残っていると思います。この「タコの滑り台」も皆に愛され、何代にも親しまれて欲しいと願っております。



洛西支部

支部長 野間 洋平

洛西支部について何か語ろうと考えてみたがコロナの影響によりなかなか支部会で集まる事が出来ず、少しさみしい状態が続いているとしか思い浮かばず…。

そこで洛西支部の地域を少しご紹介。

洛西支部の地域は右京・西京からなり、京都市の西玄関となっています。そのため地名に『○○口』というのが多い。私が住んでいるのも洛西口と『口』のつく地域である。

そんな西玄関である洛西地域はとても農住環境に特化し、商業・産業・工業は他の地域に見劣りするかもしれないが農業・住居については広めの敷地が多く田畑も多い自然豊かな住みやすい地域となっており、胸を張って自慢できる地域ではないかと思います。

空き家相談などで月1回程度は京北地域を訪れている私としては京北の自然と分譲地が集まる沓掛・大原野などは『住む・暮らす』ということにとっても特化した地域であり、花園・太秦・嵐山などは歴史文化があり、地域愛を色濃く残しやすい環境と言えます。

そんな洛西地域では近年新たな支部会員も増え、支部会員数が3番目に多い地域となりました。支部会員同士で業務協力するなど公私共に協力し合えるそんな支部会になれるよう支部会を積極的に行い、洛西地域に還元できるようにしていきたいなと思います。

とにかくコロナ早く終息してもらいたいものですね。



桃山支部

支部長 渡邊 聡

今年度より支部長に就任しております渡邊です。副支部長に浅田さん、砂山さん、牧野さん、会計吉田さんの5名でスタートしました。また各委員会の所属に関しても昨年から継続で概ね引き受けていただきましたが、1委員会に1名ではなく複数の方の参加も可能ですので、どこかの委員会に所属していただき、個人のスキルアップに役立たせていただければと思います。第1回桃山支部会は緊急事態宣言下ではありましたが、6月17日に開催しました。当日出席者11名(委任状11名)の出席をいただき、京都市呉竹文化センターで開催しました。理事会報告、委員会報告、会員異動、最近の木材事情等について担当から説明をしていただきました。最近は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあるようですが、まだまだ油断はできないのではないのでしょうか。思うように仕事が進まなかったり、資材高騰で、スケジュールと費用面で調整が難しくなっている状態のようです。支部行事もコロナ禍の為に当初思っていたようには進まず私自身戸惑いながら進めているところです。このような情勢でも、せっかく事務所協会に入っているのだから何かを得られるようにしたいと感じています。少しでも支部会員の皆様に情報提供と交流の場を発信していければと考えておりますので、可能な限り活動にご参加いただければと思います。また今まで進めてこられた事業を継続し、他支部と合同支部会を行ったりしていこうと思っています。より良い会になるよう皆様のご意見をいただきながら進めたいと思いますのでご協力をよろしくお願い致します。最後に私を含め桃山支部の会員の皆さんがどのような業務をされているのか知らない方もおられると聞いたので、知っていただく事から始めていこうと思っていますし、その情報が少しでも皆さんの役に立つ事を願っています。



乙訓支部

支部長 小森 良一

コロナ自粛で昨年度は支部研修会が残念ながら開催できませんでした。今年度は、2022年2月(参加者全員のワクチン接種が完了したころ)に私が学生時代にお世話になり、今でも毎年通っている熊本県へ研修を計画しています。内容は熊本城天守の復興、アートポリス、マニアックな観光地の研修、もちろん食では、馬刺し、京都では見かけない馬焼肉、天草の鮮魚、天草大王(巨大鶏)、からしれんこん、ぐるぐる、球磨焼酎、日本酒の名店を案内したいと思います。

熊本の友達より写真が届きました。(2021/9/16撮影)



天守閣は復活したようですが、観光客が入れない箇所の復興はまだままだのようです。



支部活動報告(コロナ対策実施中)です。

- ・7/2 第1回支部会・京都府乙訓土木事務所建築住宅室様による勉強会(基準法、省エネ)
 - ・9/17 第2回支部会・木造住宅省エネ勉強会(変更内容)
- 次回の支部会は、12月初旬に計画しています。

今後も乙訓支部一同一致団結し、できる限りの情報を集め、勉強会を開催し支部会員のスキルUP、地元への地域貢献のため、努力してまいります。

客室における換気設備について

会長 上野 浩也

今年の1月に京都市内の有名料亭の若手グループから、コロナ禍でお客様の安全を確保するために客室の換気設備について建築相談があった。1月末に当協会内田副会長と一緒に面談をし、建築基準法の換気設備について、説明させていただいた。そのうち、メールで数回やり取りをさせていただいたところ、先方から業界の広報活動と客室の換気設備の周知のためにビデオ撮影を依頼された。6月29日15時30分より京都の有名な料亭で建築士として換気設備の考え方について話をさせていただき、その内容をビデオに収録された。

京都市内の料亭は昔からの建物を活用された木造の建築物が多く、客室も比較的ゆったりとしているので、密になるという状態で営業されていないし、場合によっては、廊下への出入口は襖等が設置されており、外部建具も木製であることが多いので、客室の気密性は十分であるとは言い難いが、お客様に対して安心感を与えるために換気設備の見える化も必要な要素であることも説明させていただいた。

今後とも、換気設備の件のみならず我々の職能で協力できることは、協力させていただくこと約束した。



撮影した映像はこちらからご覧いただけます

客室における換気設備について

①



<https://youtu.be/2gnMN9waDco>

②



<https://youtu.be/ZpIMGdVRwUK>



建築士による住宅相談会

指導委員会 委員長 木下 一盛

京都市、京（みやこ）安心すまいセンターより建築相談委員の派遣要請を受け、7月30日（金）に京都市北区役所3階会議室にて建築に関する相談会を実施しました。



1組につき約30分の相談時間が設けられており、当日は満員御礼の8組全ての方々々が相談に

来られ、私を含め、内田指導委員、齋藤支部長（洛北支部）、渡邊支部長（桃山支部）の4人で対応いたしました。

相談内容は隣家との境界線について、隣家を隔てる壁のこと、長屋のリフォームについて、外壁のクラックの相談等、バラエティ豊かな相談がありましたので、その一部をご紹介します。

No	居住地	物件の所在地	相談内容
1	北区	北区	隣家が売却され解体時に隣地内に建つ塀も解体されるが、今後塀を相談者の敷地内に建てるべきか、隣家と相談して境界線上にたてるべきか相談したい。相談者の敷地内は、出窓があり、スペースがなく、塀を建てるのが難しいのではないかと考えている。
2	中京区	中京区	空き家の解体工事を検討中のため、解体業者の選び方、工事前後の注意すべき点、奥の家の間に塀がないが解体工事後に塀を建てるべきなのかなどを相談したい。建物の築100年以上の古い町家。もともとは長屋だったのがだんだん切り離された状況なので、周りの家との間に余裕はあまりない。
3	北区	北区	隣の古家付きの土地との境界確定等について相談したい。不動産業者から境界の確定は三者立会の元で行うと説明を受けたが、突然測量士が来て、勝手に境界プレートを打ち込んだ。その測量士に抗議したが、不動産業者からの回答が来ない。また、隣家は違法建築なので建替えることなく古家のまま、新しい方が住むと困る。
4	枚方市	山科区	2軒長屋の1軒を所有している。残りの1軒は相談者の実家。現在他府県に住んでいるが、長屋を手入れし、住み替えたい。古いのでリフォームすることになると思うが、リフォーム工事発注に係る注意事項や見積りの依頼、業者の選定方法など、事前に注意すべき事項を確認したい。
5	北区	北区	隣家との間にあるブロック塀について相談したい。ブロック塀に亀裂がたくさん入っており、隣の新築工事の業者が見栄えが悪いとペンキを塗ったため、隣の家からヒビは見えなくなった。ブロック塀は修理したほうが良いのか、しかしブロック塀と家の間が30cm程度のため、相談者宅からは工事が出来ない。ブロック塀の所有権は調査中。
6	北区	北区	2軒長屋の1軒に住んでいる。50年前に切り離し解体され、現在は駐車場になっている。切り離された側の壁が50年間土壁のまま放置されていたことが分かり壁を波板で補修。耐震性に不安を感じている。駐車場の反対側の家との境界に隙間はほぼないが、耐震工事が可能か。また費用面も教えてほしい。あと20年はこの家に住みたいと考えている。
7	北区	北区	隣地に5階建ての住宅兼賃貸ビルが建築された。2階部分に相談者宅の浴室があり、その真向かいに隣地の建物の窓が設置された。境界から2m程度離れているので、目隠しをつけなくてはいけないという訳ではないが、見えないようにしてもらいたい。建築士に目隠しになるような窓がどんなものがあるのかを教えてもらいたい。
8	北区	北区	親が所有する倉庫がある。外壁にクラックなどが入っており、今後は解体も視野に入れなければいけないと思っている。①建物の危険性の判断基準について聞きたい。②解体するにあたって近隣や自身が事前に注意しておくことを聞きたい。

なお、次回は11月30日に中京区役所にて実施いたします。

今後も京都市内の各区役所に赴き、相談対応を予定しておりますので、支部長の方々等ご協力いただきますようお願いいたします。

●道ばたで遊ぶ●

洛中支部 辻 伸子

かつて、京都の道ばたでは、こどもがよく遊んでいました。京都以外でも、そうだったと思います。現在では「まちかど風景遺産」といっても良いでしょう。(写真①、②、③)

私の幼少期も、家の前の道路(道ばた)があそび場でした。現在はアスファルト舗装された道路も、当時は石ころだらけの地道で、脇には一部暗きよになった細いドブが流れていました。幼稚園でも小学校からでも、帰ったら家の前で遊ぶのが日課。おにごっこ、かくれんぼ、かごめかごめ、かかしけんぱ、おはこけんぱ、ごむとび、まわりべん、だるまさんがころんだ、むしとり、びーだま…。道路から小石を掘り出してけんぱに使い、びーだま用の穴を作ったり、生えている草の茎にすもうを取らせたり、雨の日には、水たまりにわざと足をつっこみながら歩いたりして遊びました。

おとなとは別の、「こども達だけの世界」でした。

家の前の畑がいつの間にかガレージになり、遊びを車の通行で中断されたり、水洗化の下水工事の後に道路が舗装されて、次第に道ばたで遊ぶこどもの姿は減っていきました。

もともと京都の町は「みやこ」として造られました。政治や経済、外交の中核であり「おとなの、おとなによる、おとなのための」都市であり、中国の都城を模して碁盤の目のように道路を通す都市計画でした。その基本形は近代まで変わらず、こどものあそび場を確保する余地などないので、自然と道路があそび場になっていたのでしょうか。昭和30年代頃までは、そうでした。ところが「交通戦争」が叫ばれ始めた昭和38年頃から、日常の生活道路が車道と化し、こどものあそび場は奪われました。

京都市では、こども達の安全なあそび場として「ちびっこ広場」をつくり始め、昭和42年に「ちびっこひろば助成要綱」が制定されました。「ちびっこ広場」は、町内会などの住民組織が、地域の空閑地を利用して設置する自主管理型の小広場です。初年度には351ヶ所が設けられ、1970年代の最盛期には約450ヶ所まで増加しました。

こどもの頃遊んだ経験のある人、こどもを遊ばせた思い出のある方も多いことでしょう。昭和41年(1966)生まれ



①右京区・昭和44年



②中京区・昭和30年『昭和の京都』



③上尾市・昭和51年頃



の私が通った小学校の、狭い通学路沿いに「ちびっこ広場」があり、低学年頃までは下校途中によく遊びました。猫の額ほどの広さ(狭さ?)のフェンスに囲われた一角に、小さな砂場と鉄棒程度しか無かったと思いますが、「ちびっこ」サイズがこども心に楽しかったと記憶しています。

しかし、広場までの道路と広場周辺の交通事情で、交通事故を心配する親がこどもと一緒に広場へ行き、こどもにつきっきりで遊ばせる…ちびっこ広場は当初から「こども達だけの世界」はありませんでした。

90年代にはこどもの減少や管理者の高齢化等により減少に転じ、平成9年(1998)には約300ヶ所、平成25年(2014)には218ヶ所となりました。

「ちびっこ広場」もまた、新たな「まちかど風景遺産」になっていくのでしょうか…?(写真④~⑨)

私が遊んだ「ちびっこ広場」も今はありません。通学路沿いに広がっていた畑も無く、ただただ住宅が建ち並ぶ風景となっています。

令和3年(2021)の「ちびっこ広場」に人影は無く、草木が生い繁るなど、遊ぶどころか立ち入るのがためらわれるような場所が散見されます。

現代の舗装道路が、かつてのこどものあそび場に戻ることは無理としても、どこかに「こども達だけの世界」が存在していることを願います。

参考データ:『昭和48年警察白書』より

・全国自家用車普及台数(100世帯当たり)

昭和38年	3.69台
昭和47年	34.60台

※10年間で、約9.4倍に増加

・道路舗装率

	一般国道	都道府県道	市町村道
昭和38年	39.9%	9.8%	2.0%
昭和47年	87.4%	51.7%	15.0%

参考文献:『京都の歴史9』學藝書林

『昭和の京都』光村推古書院



④ちびっこ広場 上京区1



⑤ちびっこ広場 上京区2



⑥ちびっこ広場 上京区3



⑦ちびっこ広場 北区



⑧ちびっこ広場 西京区1



⑨ちびっこ広場 西京区2

京都府建築士事務所キャンペーン 『無料木造耐震診断』

—— 4年間総合診断結果報告 ——

木造耐震委員会委員長 瀬戸一海

昭和56年6月1日～平成12年5月31日に京都府全域で着工された物を対象として、「無料木造耐震診断」を平成29年（2017年）から令和2年（2020年）の4年間にわたって実施いたしました。

平成28年（2016年）に熊本地震が発生した際の倒壊家屋の状況を建築学会の報告から読み解くと、大破した建物の割合が昭和56年以前（旧耐震）では45.7%、昭和56年～平成12年（新耐震）では18.4%と少なくなっています。

しかし、新耐震でもこれだけ大破するのだという驚きがあり、協会内で論議した結果、京都府下との比較を調査することとなり、4年間で63件の無料診断を行いました。

当初、確認申請の保管があるものを考えていましたが、実際には保管されていない物件が多く存在したため、対象の範囲を広げることと致しました。

確認申請書に耐力要素が書かれている場合には現地の状態にもよりますが、なるべく積極的に評価することを前提に行いました。

診断を実施した結果、建築年は昭和49年～平成11年まであり、全体としては築年数が若くなればなるほど評点は上がっている傾向が少しは見られますが、著しく良くなったとは言えませんでした。

平成以降に建てられた物件でも評点0.5以下になるものが半数を占め、全体の評点で見ると0.7以下が84%を占めました。

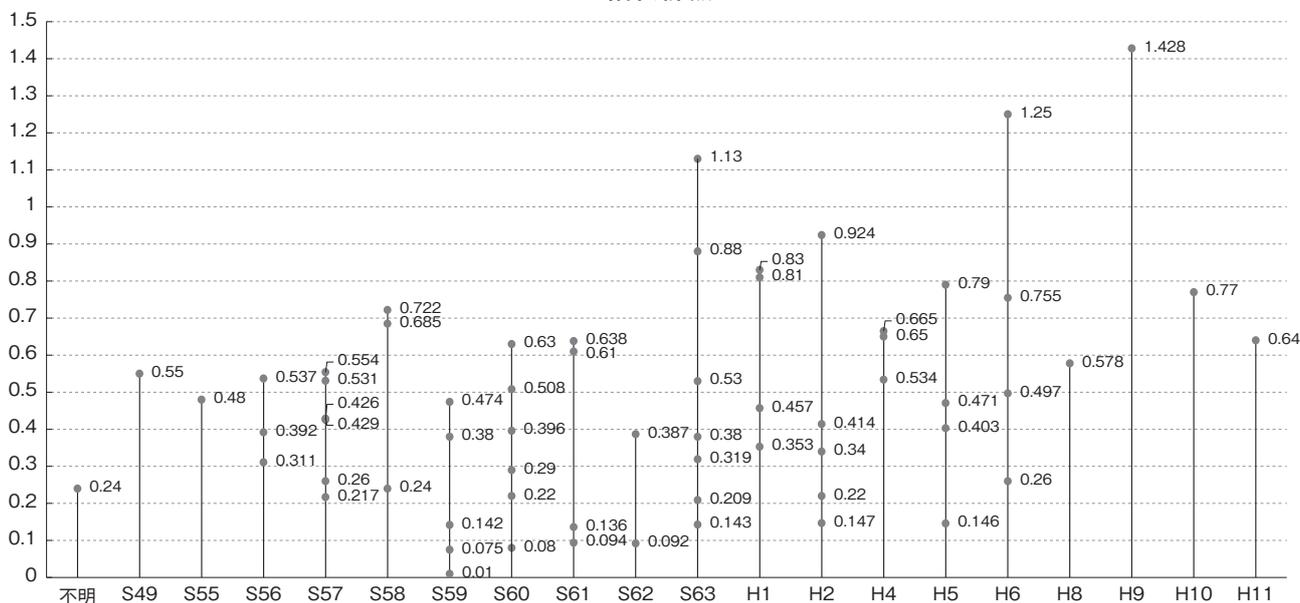
熊本地震の調査（新耐震）の倒壊率は20%ほどでしたが、今回の調査で、京都においては半数ほど（36件）が瓦葺の建物であるということが分かりました。

旧来の間口の狭い町家的な建物が多い事の特長事情により、より多くの倒壊が想定される要因といえるかもしれません。

昭和56年以前の評点とさほど変化のない傾向にあることが判明した事により、昭和56年以降の建物についても昭和56年以前の建物と同様、積極的に耐震診断を行い改修していく必要がある事を、府民、市民に伝えていく事が責務だと考えます。

以上

1階低評点



『座りすぎ』は危険です！

皆様は、普段座っている時間が長くはないですか？デスクワークがメインの方などは、ほぼ一日中座りっぱなしという日も多いのではないのでしょうか。実は、1日に11時間以上座っている人は4時間未満の人と比べ死亡リスクが40%も高まるといわれています。それだけ、身体を動かさず座ったままでは、健康に悪影響を及ぼすのです。気候的に過ごしやすくなった今、こまめに身体を動かす習慣をスタートさせませんか？

◆ こまめに動くためのコツ ◆



外出時

- 歩くときは、「歩幅を広く、早歩き」を心がける。
- エレベーターの使用は控え、階段を使う。
- 一駅手前で降りて歩く。
- バスや電車では座らず立つ。
- 近場の移動では車は使わず、徒歩か自転車にする。



仕事中

- こまめにプリントやコピーを取りに行く。
- 少なくとも1時間に1回は席を立ち、軽く身体を動かす。
- 昼休憩中、散歩の時間をつくる。
- 通勤や現場への移動などは運動ができるチャンスとして、積極的に身体を動かす。



家庭

- 「ながら」運動をする(テレビを見ながらストレッチ、歯みがきしながらつま先立ち など)。
- 家事で積極的に動く(お風呂掃除、掃除機がけ など)。
- 散歩やラジオ体操を日課にする。
- 庭の手入れをする。
- 子どもや孫と遊ぶ。



長時間座り続けることで、血流や筋肉の代謝が低下し、心筋梗塞、脳血管疾患、肥満、糖尿病、がん、認知症など健康に害を及ぼす危険性があります。

30分に1回立ち上がり動くことで、座り過ぎによる健康リスクが軽減されるといわれていますので、忙しい方もなるべくこまめに身体を動かしましょう！



引き続き基本的な感染症対策も徹底しましょう！

手洗いの実施



マスクの着用



「3つの密」の回避





「鉄の専門家集団として、比類なき技術力と高度な信頼性」を掲げ、弊社は85年以上の年月、鉄と向き合ってきました。
鉄骨物件のなかでも溶接が複雑で特殊なものを得意とし、常に品質の向上を目指して、
高まる基準や新技術など時代のニーズにも応えてまいりました。
おかげさまでエレベーター増築からホテル新築まで、規模を問わず多くのプロジェクト依頼を受けています。

弊社ではお客様との窓口役に私を含めて複数設け、プロジェクトごとの担当制としております。
経験と知識を蓄えたベテランはあらゆる内容に即座に答えることができ、
お客様をお待たせすることのないスピーディーな対応と親密なコミュニケーションを可能に。
大きなプロジェクトが発生した場合は、さらにコミュニケーションを密に行い、
スケジュール段階から提案することでスムーズな進行を図っています。
今後は第1・2工場との2本柱で生産効率を高め、機材の新たな導入や3次元CADの活用などで、
これまで以上に「ナガオカブランド」を発展させてまいります。



代表取締役社長 橋本 浩嗣

ナガオカの強み

Mグレード認定工場

Mグレード認定工場として、耐震性・耐久性に優れた建築鉄骨を製造

「Mグレード認定工場」ナガオカからのお約束

- 1 鉄骨溶接部の性能を保証いたします。
- 2 厳格な検査体制で品質を保証いたします。
- 3 耐震性に優れた鉄骨を提供いたします。
- 4 中間検査・完了検査への対応もご安心ください。
- 5 信頼性の高い鉄骨製作工場として安心してお問い合わせください。

信頼と安心の品質を保つナガオカのこだわり

- 温度管理データを共有
- 溶接技量資格「AW 検定」取得者在籍
- 経験豊富な有資格者と第三者機関による超音波探傷装置での検査を実施
- 見た目も美しく

我が社のマネジメント力

さらなる躍進を目指すナガオカのマネジメント力

クライアントとの進行を
スピーディかつ
スムーズにする折衝体制

3部長がタッグを組む
連携プレイで
さらなる
製作・品質向上を目指す

ジャンルの
垣根を越えて
互いの能力を
高めあう

スムーズな
プロジェクト進行の要
コミュニケーションを
とにかく大切に

協力会社とのネットワーク

グレード・ジャンルの垣根を越えて連携体制を築くナガオカネットワーク

弊社は長年の実績のなかで、多くのネットワークを築いてきました。同業種との連携では、技術やノウハウ、知識を共有することで、難しい案件や大規模な案件への対応を可能としています。また、自社で行う検査に加え、第三者機関の厳しい検査を導入することで、高い品質を維持しています。他にも、専門業種とのつながりによって、よりこまやかなニーズにも応えています。

株式会社 ナガオカ

【本 社】 〒617-0828 京都府長岡京市馬場六ノ坪2番地
TEL:075-951-8181(代) / FAX:075-955-6636
【第2工場】 〒617-0828 京都府長岡京市馬場四所27
会社代表E-mail nagaoka-fab@k-nagaoka.com
H.P URL https://k-nagaoka.com

■ 事業内容
【鉄骨構造物】鉄骨建築構造物・製作金物・溶接加工
【RC・木造建築】耐震補強RC・木造建築
■ 主要登録許可
国土交通大臣認定Mグレード

プロとしての誇りを胸に

高品質の地盤調査・杭打ち工事・土留め工事を行っています。

京都府に事務所を構え、関西一円を中心に全国で活動している株式会社エム・コーポレーションでは、地盤改良工事・杭打ち工事・土留め工事・杭抜き工事など多岐にわたる業務を承っております。約32年の業界歴をもつ代表を筆頭に、熟練のスタッフが施工に携わっております。安心・安全な地域社会づくりに貢献することが弊社の使命であると考え、「日本中の建物の基盤を支えている」という誇りを胸に、ひたむきに邁進してまいります。



<地盤改良工事>
建築技術性能証明工法
(GIコラム工法・SSコラム工法)



<杭抜き工事>
輪投げ工法・チャッキング工法



<土留工事>
H鋼親杭土留工事・SMW工法等



<鋼管杭打設工事>
AMZ工法・TGパイル工法・ケンマパイル工法



株式会社エム・コーポレーション（京都営業所）

〒613-0043 京都府久世郡久御山町島田庚申塚18

TEL 075-633-6336 FAX 075-633-6337

図面を読み取る

洛西支部長 野間 洋平

ここ数年、コンピュータの技術が格段に上がり、図面作成の作業効率上昇が顕著です。

そんな技術の普及により、今新たな問題が起きつつあるように感じます。それは作図未経験者の増加。

ここ数年、私は某建築系資格学校で講師を務めています。今年大学を卒業したての受験生や現役大学生等を担当しているとほぼほぼ製図経験がないのである。建築学部だよね?と聞くと建築学部と答える。しかし、製図は未経験なのだ。大学で図面描いたことある?と聞くとCADで描いてましたと答える。CADでどんな図面を描いたか聞くとテンプレートをはめ込む作業がほとんどのようだ。そんな受験生達は図面の表現でわからないことが多い。描けないなら描けるように練習したら良いのだが、問題は図面を読み取ることが出来ないのだ。柱はこれだよ、壁はこれで手摺はこれ。表現が違うでしょ。と言わなければ理解してもらえないのだ。

まだ建築士を目指すような人は試験において製図があるため、いつか学ぶチャンスがあるから良いのだが、先日とある現場で衝撃の一言を言われた。

『設計士さん、私図面分からないから組立図を作っ

て欲しい。できれば色付きで作ってください。WDと書かれても意味を調べるので時間がかかります。』かなり『?』が飛んだ。図面を読めない職人さん。組立図とは?どんな図面を求めてるんだ?聞いてみると、『プラモデルの組立解説書みたいなものじゃないと理解できません。』もう目が点になりました…。

最近では従来の図面では通用しなくなっているのだろうか。いや、今までどの現場でもちゃんと図面を読み取ってくれていた。つまり若い職人さんは図面を読み取る力が落ちてきているのだろうか。そして建築系大学でもCAD等の使い方は教えても図面の表現や意味、読み取り方までは教えていないのかもしれない。

現に私が学生のころでも基本的な(資格試験で使うような)図面は教わったが、電気や設備、天井伏図や建具表、仕上表などは下積み時代に教わったものだった。そう考えると今の学生達はさらに図面を簡素化した物しか教わっていないのだろう。簡素化した知識でもAIが補ってくれるこれからの時代、図面は描けても図面を読むことができないなんてことが増えていくかもしれない。



下呂温泉「湯之島館本館」飛騨高山

斜面をあまり造成せず、洋館2棟、和館2棟を渡り廊下でつないで国際観光規格のリゾートホテルを建設した。

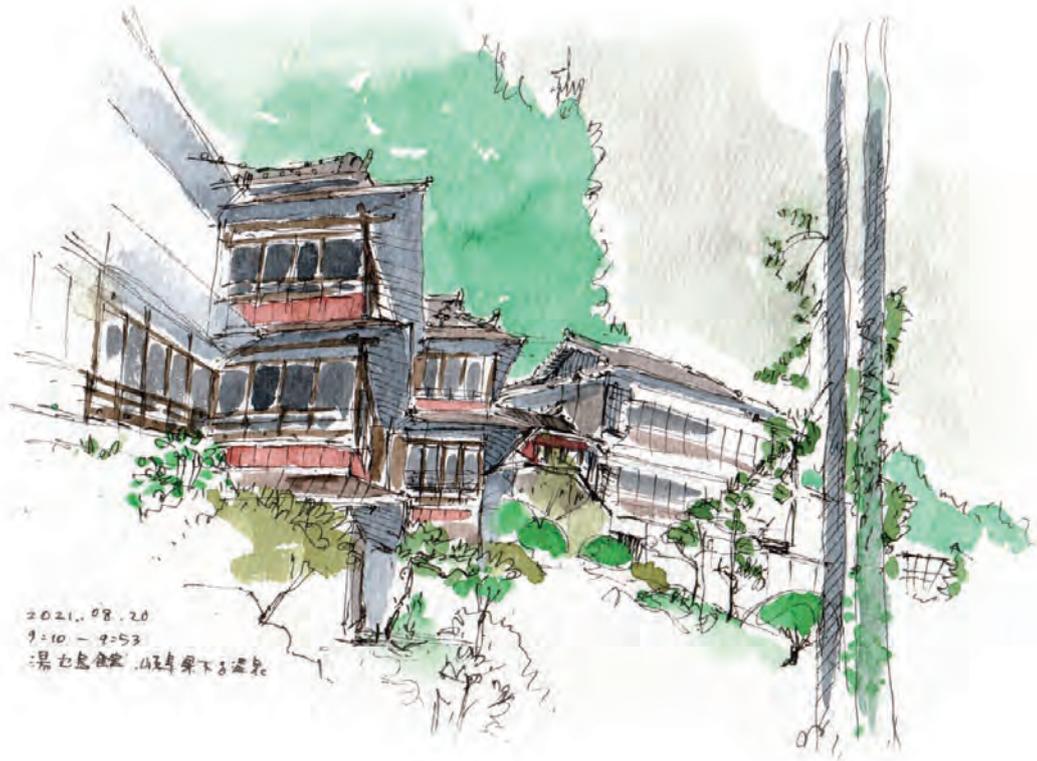
和館は飛騨高山特有の懸け造りだ。懸け造りは斜面に建てる形式で1階が半地下になる。そのおかげで3階建ての大きな建物に見えて迫力がある。それでもヒノキ林に埋

没しているのです、これ見よがしなところはない。樹林のなかに小さく開かれた陽の当たる広場のような不思議なおもむきがある。

このおもむきは大きな造成をせずに建物を4つに分割した結果だろう。普通の設計者なら斜面を大がかりに造成したうえで1棟にまとめるはずだ。

でもそれでは木立のなかの小広場のおもむきはかなえられなかっただろう。湯之島館は丹羽英二のたぐいまれな天才の表れた作品だと思う。(スケッチと文章、円満字洋介)

※丹羽英二設計、本館は戸田示造施工、1931年竣工
ヴァプアール紙粗目F3、グラフィックペン0.3、固形透明水彩、2021.08.20スケッチ



編 集 後 記

秋に花を楽しめるよう初夏にコスモスの種を蒔きましたが、現在育っているのはわずか1株です。発芽以降は順調に育った苗ですが、アブラムシのために次々と枯れてしまったのです。今後の予防策を調べているとアブラムシのすごい生態がわかりました。

春になって孵化するのはすべて雌、そして春から秋にかけて産まれるのもすべて雌です。しかも胎内で孵った状態で産まれてくるのです。約30日の寿命で、成虫は1日に5匹の幼虫を産み、幼虫は10日で成虫に、以降この繰り返しになるので爆発的に数が増えるというわけです。幼虫は成虫と大きく変わらない形態のため、産まれてすぐに植物の液を吸うことができ、植物に与える被害は相当なものとなります。テントウムシなどの天敵に喰われて寿命を全うできるものは少ないのですが、お尻から甘い蜜を出してアリと共生関係を結び天敵に対抗するというのは良く知られています。

基本的に動くことが少ないので通常は翅(はね)を持たないものを産むのですが、ある程度数が増えてくると翅を持ったものを産むようになり、それらが新天地を求めて旅立つこととなります。秋以降は雄を産むようになり、繁殖して産むのは幼虫ではなく卵となります。寒さに弱いので卵の形で越冬するのです。そして春になって再び活動を行います。

無理やり経営に当てはめてみると、競争の激しい業界で即戦力になる人材を絶えず育て続け、必要に応じては他業種と協業、ある地域で一定の成果を取めると別の地域に進出、景気が陰り出したら異種人材を採用して社内改革を行い、来るべき時期に急展開できるよう備えるといった感じでしょうか。弱い生物であるので大胆な生存戦略を行わないと生き残れないということだと思いますが、なかなかの策略家です。

ちなみに駆除や予防策ですが、天敵を呼び込む、殺虫剤を使う、太陽光を反射するシートを地面に貼る(方向感覚を狂わせて寄り来なくする)などが有効です。(田中 祐介)

○発行 令和3年11月1日
○発行所 一般社団法人 京都府建築士事務所協会
〒603-8163

京都市北区小山西大野町1番地 紫明会館1階
TEL 075-334-5277 FAX 075-334-5377
<https://www.kyoto-kenchiku.com/>



○編集人 編集長 堀井里見
編集委員 木村 智、岩村和男、橋本勇樹、
酒井 徹、石井克憲、田中祐介、
風月貴広、小峠圭三
○印刷所 株式会社ティ・プラス